

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社 アイファミリー
事業所名	グループホーム ファミリー
所在地	愛媛県松山市北梅本町甲3 2 6 4
自己評価作成日	平成26年1月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな住宅街や田畑が近辺にあるため、ゆっくりと散歩したり、リラックスした雰囲気や地域の方と交流出来ている。施設保有の畑で作られた無農薬野菜を中心にしたメニュー作りをして、食卓を飾っています。おせち料理、節句の料理やおやつなど職員の手作りで、季節感を大切にしたい食事は、利用者やご家族様にも喜ばれています。野菜の下ごしらえには、職員と利用者一緒にするなど、家庭的な雰囲気の施設です。家族や友人も良く面会に来られ、会議やイベント時にもたくさん参加して下さいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員体制が新たになり、この3年間は、地域活動に積極的に参加する等して来られた。この1年間は、回覧板で運営推進会議の案内を回してもらえようになり、地域の方と一緒に大三島へ日帰り旅行を楽しむこともでき、地域との関係作り成果を感じておられる。現在は、庭に花をたくさん植えて、地域の方達に事業所の場所を知ってもらい、又、近所の方達の目を楽しめたいと取り組みをすすめておられる。
運営推進会議には、ご家族が5～6名参加されている。ご家族同士の交流の場にもなっており、別れ際には、「また、会議でお会いしましょう」と声をかけ合う様子も見られるようだ。会議を欠席されたご家族には、個別に、利用者ご本人の活動の様子を写真を採り入れ、会議内容を報告しており、ご家族に伝わりやすい工夫されている。又、欠席したご家族の中には、「前回の会議はどうだった？」と、後日、内容を聞いてくださる方もいる。半年に1回程度、手紙で案内して、ご家族と面談する機会を設けており、個々に日頃の様子や金銭管理について報告し、意見や要望を聞いておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ファミリー

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 高橋 けい子

評価完了日 26年 1月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 日々利用者と一緒に生活して行くために、基本理念「無理をせず、あなたのやりたい事をしましょう、私達がお手伝いしますから」をケアのポイントに置き、利用者個々の速やかなケアができるよう、職員がチームに分かれて、実践している。	
			(外部評価) 職員採用時には、事業所理念について説明をされている。職員は、居間に掲示されている理念をみて、日々のケアを確認しながら支援をすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で行われている行事(夏祭りや秋祭りなど)等に積極的に参加している。また、近所を散歩して、地域の方々とあいさつするよう心掛けしている。今年は、地元小野地区の防災訓練にも参加させてもらった。	
			(外部評価) 職員体制が新たになり、この3年間は、地域活動に積極的に参加する等して来られた。この1年間は、回覧板で運営推進会議の案内を回してもらえようになり、地域の方達と一緒に大三島へ日帰り旅行を楽しむこともでき、地域との関係作りに成果を感じておられる。現在は、庭に花をたくさん植えて、地域の方達に事業所の場所を知ってもらい、又、近所の方達の目を楽しめたいと取り組みをすすめておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎回の地元の掃除の際は、必ず職員が参加して、自治会会長や班長と知り合った。おかげで、回覧板などに運営推進会議の案内状などを入れて頂き、回覧してもらえようになった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 去年からの取り組みが良かったのか、毎回たくさんの家族様が参加して下さるようになった。また地元の交番勤務の警察官の方も直近の地元の話をして下さったりと、地元の方の参加も増えている。そのため、身近な利用者の問題点や取り組み等を話し合える場になってきている。</p> <p>(外部評価) 会議は、参加者の日程の希望をお聞きして、平日・土曜日を交互に開催されている。以前の外部評価時の話し合いがきっかけとなり、行事等と同日に会議を行うよう取り組みをすすめて来られ、ご家族の参加が増えることにつながっている。会議は、議題を決めて話し合っており、グループホームについて、認知症について、又、時には、薬剤師の方を招き、薬のことや服用の仕方、薬手帳等について話していただき、みなで勉強されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村担当者とは密に連絡を取り合っているため、気軽に疑問点も教えて頂いている。また反対に介護DV等の有識者会議にも参加しませんかとお誘いを頂いたりして、参加させてもらった。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの担当者は、運営推進会議に参加され、会議について「家族の参加が多く良いと思う」「問題点を家族と一緒に考えているところが良い」等、感想を話して下さった。又、地域の災害マップづくりの際には、事業所からも情報提供をされた。身寄りがない高齢者のサービス利用について、市から相談があり、成年後見制度等の活用につなげ、支援している事例もある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職場内研修にて身体拘束を時々取り上げている。職員同士で話し合いを積み重ね、反省点や新たな取り組み等考えた上で実践してもらっている。玄関の施錠の件は、12月の運営推進会議で家族の意見を聞いたが、当施設との考え方とは意見が違う。半年後にまた話し合うことになっている。</p> <p>(外部評価) ご家族から「自由より安全を優先してほしい」という要望が多くあり、ご家族の同意を得て、現在は、玄関の施錠やベッド柵、又、車いすの安全ベルトを使用しているケースが複数ある。身体拘束する場合は、利用者に「ベルトしてもいいですか?」と聞くようにされている。対応は、「拘束に関する経過記録」に記入することになっている。転倒の心配がある利用者には、居室のタンスの上にセンサーを設置しており、利用者の動きを感知すると廊下のランプが点滅して、職員が分かるようになっている。</p>	<p>利用者の中には安全ベルトを「のけてほしい」と言われる方もあるようだ。又、職員は、ベッド柵があるから付けるということに慣れてしまうようなケースもあるようだ。事業所では、今後、職員の人手のある時には拘束を外すことに取り組み、ご家族にケアへの信頼を深めてもらえるよう、取り組んでいきたいと考えておられた。自由で安全な暮らしを提供できるよう、ご家族と一緒に利用者の立場に立ちながら、話し合いを繰り返していかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職場内研修はもちろん、日頃の言葉掛けやコミュニケーションの取り組み方まで、勉強している。職員の精神的な(介護)ストレスが虐待に向かないようにするためにも、休憩時の交代職員や調理の職員を新たに雇った。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今年は、家族からのDVによって市の保護の利用者を受け入れることになりました。それによって、成年後見人を選任されるまでの流れや仕組みをより理解できるようになった。おかげで、市が取り組んでいるDVの話し合いの場にも参加できて、何かしら支援できる体制が出来つつあると感じた。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入院希望の段階から、双方の話し合いや面談などの時間をたくさん持って、不安や問題点が無いようにした上で、契約して頂いている。契約を交わす際は、きちんと説明を行っている。また具体例も併せて説明している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 今年は、きちんと2カ月に一度の運営推進会議が開催できた。平均6名前後の家族様と地元の交番の方や市関係の方が参加して頂き、毎回、回を重ねるごとに話しやすくなるのか、率直な意見を伺える。事細かな問題点も話し合えるようになった。それらの意見は、毎月の勉強会で報告し、反映する問題点などは、職員と一緒に取り組んでいる。 (外部評価) 運営推進会議には、ご家族が5~6名参加されている。ご家族同士の交流の場にもなっており、別れ際には、「また、会議でお会いしましょう」と声をかけ合う様子も見られるようだ。会議を欠席されたご家族には、個別に、利用者ご本人の活動の様子の写真を採り入れ会議内容を報告しており、ご家族に伝わりやすいよう工夫されている。又、欠席したご家族の中には、「前回の会議はどうだった?」と、後日、内容を聞いてくださる方もいる。半年に1回程度、手紙で案内して、ご家族と面談する機会を設けておられ、個々に日頃の様子や金銭管理について報告し、意見や要望を聞いておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 昨年より毎朝、朝礼を行っている。迅速に対応しなければいけない問題点や意見は、その場にて話し合う事も多い。全体の職員にも反映しなければいけない時は、毎月の勉強会で機会を設けている。	
			(外部評価) この一年間は、職員のスキルアップに力を入れて取り組まれており、内部研修のほかに、すべての職員が半年に1回は外部研修を受講できるよう、すすめておられる。接客対応向上の研修を受講した職員は、内部研修時に内容を報告し、運営推進会議時にも発表された。職員が研修で習って来られた、毎朝、職員が利用者へ「おはようございます」とあいさつするだけでなく、その後、「よく眠れましたか?」「ご飯はよく食べられましたか?」と言葉をかけ、利用者とのコミュニケーションを図ることを採り入れ、取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 今年も、職員個々の実績や勤務状況などが優れた数名の職員には、給与をアップした。また、休憩時間専門の職員以外にも調理専門の職員も新たに雇い、落ち着いた環境で働いてもらえるようにした。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の職場外研修は、半数以上の職員が受けた。研修報告書の内容が優れている場合は、運営推進会議や毎月の勉強会で発表してもらった。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者をはじめ、計画作成者や職員も小野久米地区のグループホームの集まりには出来るだけ参加させてもらっている。他施設との違いから当施設の良い点・改善点なども得られているようです。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用の前に本人や家族等からよく話を持つことに心掛けています。不安な点が話しやすい信頼関係が築けるように職員とまた利用者同士が、より良いコミュニケーションが図られるように重きを置いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 人居希望の見学や面会時、また電話にての問い合わせの際も、何を欲しているかや要望等を話から読み取り、丁寧に説明している。またいつでも相談して頂けるためにも、話しやすい関係を築けるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 人居希望時から、話す機会をたくさん持ち、利用者の以前の生活を把握して、サービスに反映できるようにしている。また必要な支援が出た場合は、以前のかかりつけ医、以前の担当ケアマネージャー、利用者、家族、統括部長、管理者で話し合い、迅速に対応するように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自立した生活が送れるように職員と利用者が共に支えあるような関係を築き、援助を行えるように心掛けている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 昨年に比べ、家族や友人の面会がととも増えた。日頃から電話や手紙にて頻繁に日常の様子を伝え、家族からのご意見も伺いやすい環境になってきていると思う。また家族様と本人との絆は、常日頃から職員が支えながら必要性を感じてもらっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔からの友人が面会に来られて、電話したりと、その支援を行っている。DVにて家族から離れている方には、昔の暮らしのなじみのある食事などを作ったりして、気持ちの中だけでも思い出してもらえるようにしている。家族がいない方には、職員と一緒に墓参りなどにお連れしている。 (外部評価) 秋祭りには、事業所の庭に神輿等が来てくれて、普段は外に出ることをおっくうがる方も、笛や太鼓の音に誘われ、外に出て祭りの雰囲気を楽しまれたようだ。送迎サービスがある美容室を利用されており、利用者の状態によっては事業所に来てカットしてくれ、利用者馴染みの関係となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 身体的な介護以外では、みな同じようなコミュニケーションを保てるようにして、疎外感や孤立感を生まないように気を付けている。上手くコミュニケーションが図れない利用者には、職員が間に入り、利用者同士のかかわりがスムーズに持てるように支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院や家族同居のために退去後も、引継がれたケアマネジャーや病院の生活相談員さんの支援をした。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の個人対応するケアチームを職員数名で作っているため、日常生活から本人の要望や意向を聞きやすい環境にしており、それらをケアプランに反映している。 (外部評価) ユニットごと、職員、利用者それぞれを2グループに分け、ケアチームをつくり、職員が利用者へのかかわりを深められるような仕組みをつくっておられる。又、ご家族からの伝言や情報、又、利用者の情報もチームで共有して、取り組みをすすめておられる。	職員は、もっと利用者にかかわり、利用者のことを知りたいと話しておられた。今後さらに、利用者の行動や言葉等の情報を集め、又、日頃かかわる職員の気付き等を出し合い、個々の思いや意向を探っていかれてはどうだろうか。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族や以前の担当ケアマネジャーや看護師から生活歴や趣味等をお聞きして、なじみの生活が日々の生活の中で生かせるように心掛けている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者ごとに一日の生活を記録しており、排便や病院の往診・受診内容も記録している。また職員のケアチームによって、日々の体調や心理変化を早期に見つけ、現状の把握とケアの改善に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者個別に対応するケアチームを中心に、カンファレンスを行い、職員からの意見や提案も介護計画書に反映させている。また、担当医や家族等とカンファレンスを行うこともある。</p> <p>(外部評価) 介護計画作成前には、「課題分析」を行い、利用者が生活上困っていることを挙げ、計画をつくっておられる。計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとに見直すようになっている。1階ユニットでは、自転車こぎや、手すりを持って立つ練習等に取り組む利用者の意欲を高められるように、実施したらシールを貼るようにして応援されている。「痛い」とよく言葉にする方には、ご家族と相談して、好きな歌を歌って気分を替えてもらったり、又、ご家族と一緒に歌を歌うような場面も作って支援されている。</p>	<p>実践者研修を受講された職員が、計画作成の視点について学んで来られたことがきっかけで、今後は「利用者ご本人になりきって生活について考え、計画を立てたい」と考えておられた。利用者の暮らし方の希望についての情報を活かして、利用者がその人らしく暮らし続けられるような計画に、工夫を重ねていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎月の介護計画をもとに、ケアチームで重点的に実施する目標を立て、実践している。個別対応をしているが、他のチームのケアプランや実施目標は、職員間でそれらの記録等を回覧してもらい、情報を共有している。また改善点なども提案し合っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の柔軟な支援に対応するためにも、常日頃からのコミュニケーションや信頼関係の強化を重視している。家族が一番希望される病院介助もほとんど職員が行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 秋祭りでは、たくさんの地域住民や子供さんがホームに来て、神輿や獅子舞を楽しみ事が出来ている。また盆踊り大会では、地域住民の中で踊ったり、出店などを楽しんだ。1月に入り、地域の方に花々を楽しんでいただくため、利用者と職員で、道路のそばの敷地や庭の手入れを始めた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 2週間に一度、各利用者のかかりつけ医が往診に来て下さっている。24時間対応のかかりつけ医がもう1つ加わり、急変時の往診や夜間対応がより充実している。個々の(毎日の)健康状態表を作り、一目でバイタル、食事状況や排便状況などが分かるようにして、かかりつけ医に伝えやすくした。</p> <p>(外部評価) この1年では、新たに24時間対応して下さる医療機関と連携を図るようになり、運営推進会議時には、「開業医と24時間対応病院との違い」について、ご家族等に説明された。事業所では、新たに利用者の数日間のバイタルサインや食事、排せつの状態が分かるような表をつくり、いざという時に正しく医療機関に情報提供できるように整備されている。又、利用者の情報は一冊のファイルに綴じて、いざという時にすぐ対応できるよう工夫されていた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) パートタイムですが、看護師・准看護師免許を持った介護職員が、体調変化など気になった点などを訪問看護師に伝えて、協力医との連携体制を取り、往診や看護をしていただいている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 日頃から入院などが考えられる利用者には、迅速な入院や緊急搬送に備えて、かかりつけ医と情報交換している。また日頃から病院の地域連携室には訪問したり、電話をしたりと関係づくりに努めています。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) かかりつけ医との指導のもと、重度化した場合や終末期の在り方について、本人、家族、施設職員一体になって、話し合いを重ねるようになっている。今年度は、看取り介護の方はおられませんでした。以前の看取りの際の話を(新たに入所された)利用者や家族等に話して、時々家族や親せきの中でも話し合ってもらっている。</p> <p>(外部評価) この1年間で看取りを支援した事例はないが、グループホーム交流会時、他事業所と意見交換等したことを運営推進会議時に報告をされた。ご家族の中には、「最期までと思って入居しました」と言われる方もあり、統括部長は、治療の必要性がなく、主治医、ご家族、事業所で方針が一致した場合に看取りを支援できる等、看取りを行う条件を説明された。夜間の体調変化時のご家族への連絡については、必要性を熟考して早急に連絡が必要か、又、夜が明けからの連絡でかまわないか決め、対応されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故時の対応マニュアルを作成している。利用者の急変時に備えて、利用者情報のファイルやマニュアルはすぐ手にして対応できるように目に付く場所に置いている。定期的に勉強会も行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の「対応マニュアルは職員に周知しており、定期的に訓練を行っている。8月に小野地区の防災訓練にも当施設の防火管理者が参加し、地域防災担当者との協力関係もとれている。10月の消防署立ち合いのもと避難訓練も南海地震を想定したものに、交番の方も来て下さって、大勢で訓練できた。	
			(外部評価) 事業所で利用者の食料10日分ほどを備蓄されている。8月には地域の災害訓練に参加して、職員は、消防署に通報する役を務められた。又、事業所で10月に行う訓練時にも、地域の方達に参加いただけるよう働きかけ、防災士の方達も参加していただいた。災害時等、いざという時の避難しやすさを考え、車いすを使用する利用者は、できるだけ1階ユニットに居室を移動できるようすすめておられる。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報、外部に漏れることが無いように厳重に保管している。また職員には、当社に勤務中・退職後も個人情報流出することが無いように、言葉の虐待が内容に周知している。	
			(外部評価) 統括部長や管理者は、利用者の行うことについて「手を出し過ぎないように」と職員に話しており、利用者の力を活かした支援に努めておられる。食材の買い物は、統括部長が担当となっており、時には利用者に「お手伝いしていただけますか」とお願いして、一緒に出かけておられる。利用者はカートを押したり、荷物を持ってくださることもある。昨年3月から毎週パンの販売車が来てくれており、利用者は楽しみにパンを選び、おやつや朝食に食べておられる。10時のおやつ時には、コーヒー、ココア、お茶等、好きな飲み物を選んでもらえるよう、声をかけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定が可能な利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアをするよう心掛けている。自己決定が困難な利用者については、ご家族と相談したり、利用者本人の表情等から気持ちを理解し、支援を行っている。ケアするときは、言葉掛けで、出来るだけ本人の同意を得るよう心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者が各自のペースでゆったりとした時間が過ごせるような環境・雰囲気作りを心掛けている。また、利用者が孤立する事のないように、声掛けや見守りを行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 送迎付きの理容室、訪問散髪の理容室を使ったり、昔からの馴染みのある美容室に職員がお連れしたりしています。化粧品などの日用品を求めたい方には、職員付き添いのもと、近くのお店で買い物をしたりしています。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と職員と一緒に野菜の下ごしらえや簡単な料理の準備をしている。食事の準備や下膳などは、無理のない程度に行っている。昔よく食べていた料理などを利用者の話から想像して作ることもある。	
			(外部評価) 統括部長が献立を作り、食材は、法人代表者がつくる野菜等をふんだんに使い、肉と魚をバランスよく採り入れて食事を作っておられる。食材は、小さく切っており、調査訪問時には、フォークを使ってご自分で食べる方やマイペースで食べる利用者の様子も見られた。昼食は、職員が2ユニット分のもをつくり、夕食は食事作り専門職員が担当されている。職員も一緒に食事しており、食事中は食べることに集中できるよう、静かな雰囲気に心がけておられる。県外に住んでいた方に、よく食べていた料理をお聞きして、作り方を聞きながら作ってみたこともある。少し違うものができたようだが、利用者はその過程を楽しまれたようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の身体状況に応じた食事形態で食事を提供している。栄養バランスや水分量を気を付けなければいけない利用者には記録を付け、栄養不足・水分不足にならないよう注意している。水分摂取が十分に取りにくい方には、職員が作ったゼリーを食べてみたり、好きな飲料を飲んでもらうようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 見守りにてほぼ口腔ケアはできている。出来ているかは、日誌に記録している。毎週火曜日には、義歯を付け置き消毒しています。歯科の往診や連携歯科の協力のもとに口腔ケアや歯の治療に力を入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄のパターンを知るために、排便記録表をつけている。ケアチームによる支援も排泄の自立に向けて、良くなっている利用者が多い。場合によっては、協力医の指導をいただくこともある。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	排便記録表や服薬表、水分チェック表などから、毎朝の朝礼と夕方の申し送りにて、職員に排便情報をきちんと掴んでもらうようにしている。飲食物の工夫、散歩やレクリエーションなどの働きかけは、職員が進んで行ってくれる。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	特に気を付けているのが、不潔行為がみられる利用者には、利用者本人のペースを大事にして、言葉掛けなどで出来るだけご自身から入浴して頂けるように支援している。歌と一緒に歌ったりする場合もある。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	利用者本人の希望や様子に応じて、休息して頂いている。布団やまくらなどその方にあった工夫を職員がして、気持ちよく眠れるように支援している。また居室での消灯時間等は決めず、本人が眠りたい時間に就寝してもらっている。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は、ファイルにして、職員が見られるようにしている。変更時は、朝礼や申し送り時に伝え、申し送りノートなどにも記載して、職員に周知してもらっている。1Fのノートには、全利用者の変更事を記載するようにしている。症状の変化が見られた場合は、迅速に対応できるように協力医や薬剤師との連携を図っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 手芸が好きな利用者が多いので、手芸の本。また子供の頃に読んだ絵本を読みたがる方が多いので、リビングに置いて、好きな時に読んでもらっています。1Fの利用者の方は、特に野菜の下ごしらえや庭の手入れをよくして下さっています。個々の活動の記録表などもあり、個々の役割をされたときは、シールを貼ったりしています。リビングに掲載しているので、本人のやる気にも繋がっているようです。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外食、喫茶店、JA直売所やスーパーなどに出掛けることが多いです。1Fの利用者の方は、車いすの方が多く、近くの飲食店にお願いした食事等を皆で食べることもあります。また車いすの方は、職員と昔の職場近くを訪れたり、個々に対応しています。 (外部評価)	外出については、利用者の希望を引き出して支援につなげたり、ご家族等へも支援の工夫や希望について、うかがってみてはどうだろうか。又、時には、ご家族も一緒に出かけて楽しむような機会を作ってみてはどうだろうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時にはご本人で支払って頂きますが、施設内では、事務所の金庫にて保管しています。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人が電話などを使いやすいように、声掛けなどを行っている。希望時には、自由に電話を使ってもらっています。また手紙や荷物のやり取りもご本にお任せしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>よく散歩に出かけるので、季節の花々を摘んでこられたり、職員が持参してくれたり、季節の花を飾ることにしている。季節の果実が飾れる時は、香りも楽しんでいただきたいので、職員が率先して飾ってくれています。毎月、絵の得意な職員が率先して、利用者と一緒にリビングや廊下の絵を制作してくれます。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の窓からは山々が眺められ、調査訪問時には職員が薄っすらと雪化粧した山を見ながら、「外は寒そうですね」と利用者と話しておられた。畳の間には、華道の心得のある職員が生けたお花が飾られていた。掘りごたつがあり、時には利用者も座ってくつろぐこともある。テーブル席では、ラジオ体操を行ったり、利用者が数人集まりおやつのだら焼きを作ったり、又、ピンクの色紙を使って貼り絵の作品を作っている様子が見られた。2階ユニットでは、利用者みんなでカルタやトランプで神経衰弱を楽しめるよう支援されている。誕生会や運営推進会議時には、1つのユニットに集まり過ごされる。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングやダイニングはもちろん、2階の利用者が1階で、また1階の利用者が2階で過ごされたりと自由にできるように、見守り・支援している。思い思いのばちよで過ごしてもらうために、言葉がけを控え、見守り重視の時も多い。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ベッドやタンスの位置を時々変えられたりする際も、見守りのみで、自由にしてもらっている。好きな物や馴染みの物などを自由に飾っていただいている。クッションや座布団なども過ごしやすいうように、利用者本人が工夫されている方もおられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口には、お花のマークに名前を書いて貼っておられたり、お好きなカラオケのイラストを貼り、目印にしている方もあった。自室で信心する利用者もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>トイレは部屋には、名札や札を貼り、分かりやすくしている。センサーマットの他、人感センサーなども必要に応じて使っている。転倒リスクの高い方には、タンスやベッドを除けて、畳の上に布団を敷き、休んでいただいている。</p>	